

## 対馬暖流の北上流は非常に弱い 対馬暖流の流量は平年の2割 今後の沿岸水温は平年並で推移

2022年9月22日～30日にかけて実施した日本海定期観測の結果をお知らせします。

日本海を北上した対馬暖流は、渡島半島の遙か西方から本道に近づき、その大部分が津軽海峡へ流入しています。このため、本道西岸を北上する対馬暖流の明瞭な流れは認められません（図1c）。

せたな沖で計算した対馬暖流の北上流量は約0.2Sv（1Sv=10<sup>6</sup>m<sup>3</sup>/s）で平年の約2割と非常に少なくなっています（8月流量の平年値は1.0Sv）。対馬暖流の流量は、2021年10月以降、平年並みかそれよりも多い状態が持続していましたが、その状態は本年10月をもって終了した模様です。

積丹半島西方と羽幌沖西方に暖水渦が形成され、渦の周辺では時計回りの流れが強くなっています。

50m深水温は、暖水渦がみられる海域で18℃以上となっており、平年よりも4℃以上高くなっています（図1a,b）。また、対馬暖流が東進する松前沖においても、50m深水温は平年よりも6℃以上高くなっています（図1a,b）。

9月中の余市前浜水温は「平年並み」で（※1）、向こう1ヶ月の気温の予報は平年よりも高くなる確率が低くなっていますので（※2）、沿岸水温はほぼ「平年並み」で推移することが予想されます。



※1 <https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyou/suion/index.html>

※2 気象庁HPより1ヶ月予報：<http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

余市前浜水温 気象庁1ヶ月予報

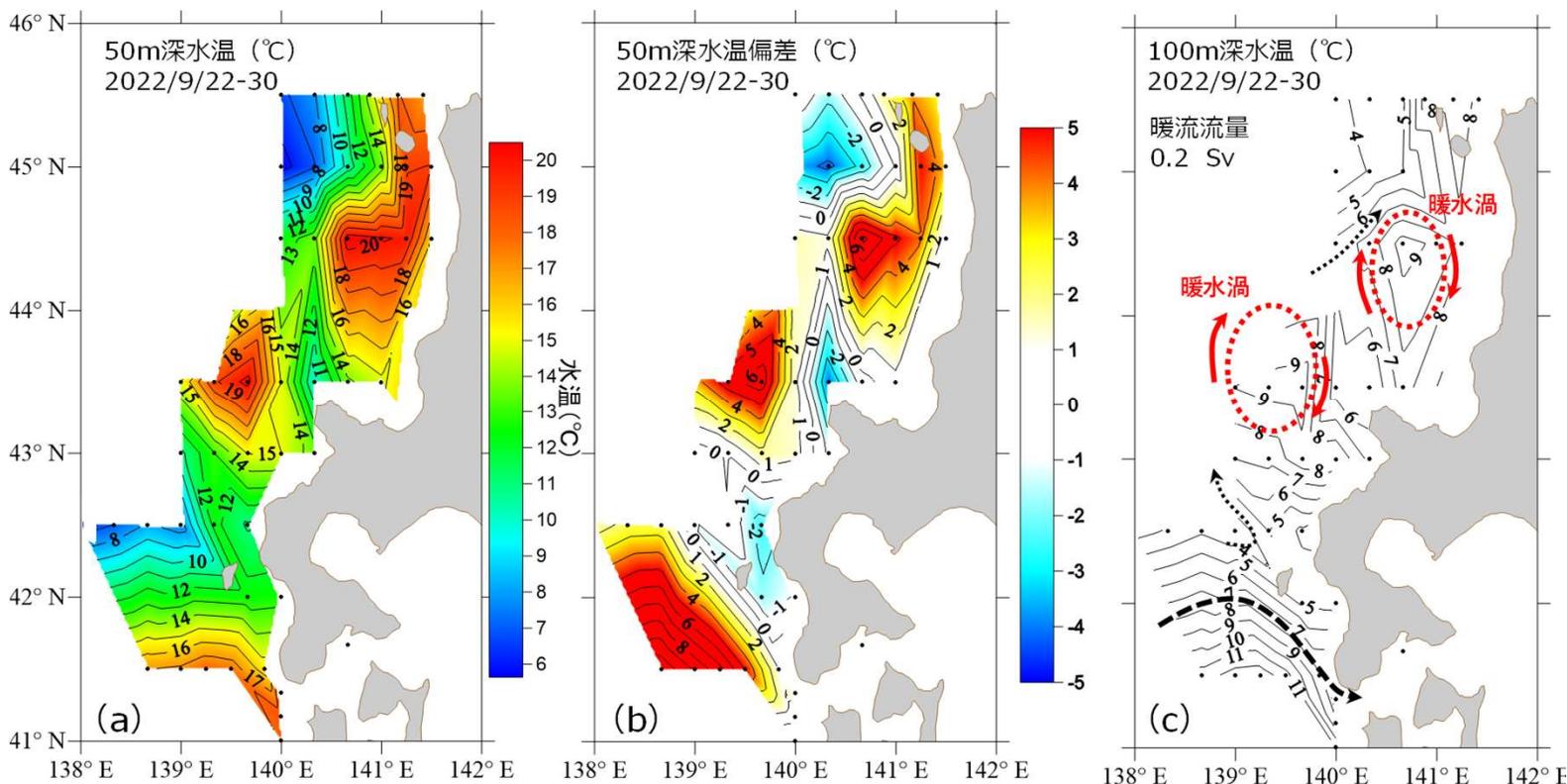


図1 2022年9月下旬における (a) 50m深水温 (b) 50m深水温偏差の水平分布、(c) 100m深水温の水平分布と対馬暖流の流路(矢印)。水温偏差は過去30年(1989年～2018年)の平均値から算出。流量の単位はSv (=1×10<sup>6</sup>m<sup>3</sup>/s)。